

517

昭和 40 年 7 月 9 日

部 説 “失われた世代”

龍代市人口は六万人口として早く一百人はいるはずの、である。この数字は彼等々がもとお族の存在の上、の現象で、人事をしている間に、龍代市の自らの経済通じて、いつ重要なものであるべきである。それは「龍代市」の現象で、最も注目されるべきトピックにまたがり、のじた現象でもある。青げを保つしオーバーにまたがり、見聞風の彼等は昇進が見出される。

彼等は一様に、二十歳以上、何をするともなく、年に十七、八から二十五歳まで、何をするともなく、現われては必ずともなく消えていく。まさにカラーゲの如きを残す。彼等の正体は、何時であるか、一見龍代風の彼等は実はみな職を持つている。彼等はほとんどは近郊の農家の育生者なのである。彼等は農つて農むるが離れようとする。彼等の親達は彼等労働力を失ひ、そのために、オートバイ一台と、もう残りと被る等をめぐらしくなる。彼等の町には自立する存在がない。それが、龍代の町には珍しくないものだ。

彼等「もみあげ族」は「自立」の存在である。よし、よい。だが、人通りの多くない真夏間の町を我らが歩く。しかも、少しおかしかつ歩きの彼等、龍代の若者達の大半が、のじるのじるの如き鍵錠、ねらいががだ。しかしこれが、考れば考れば事が裏で、なしにはすぐわかる。この年代の若者達が日本の人口へ占める割合は約十一・四、失われた世代（ロスト・ジェネレーション）、「今は生き残るためには、アメリカ社会など並びに彼らを描いた書籍名などに、立場を導く我々の失われた世代」が増へつてゐるのは、国際的傾向である。それでは、失われた世代が増へつて、それが、失われた世代が増へつてあるのは、龍代市で同じように斜陽の活路、見つけられる。そして、龍代市もそれに流れ増えゆく。この問題を筆者、慶應義塾大学の場合は、大半が漁業者の中であつて市内、内海漁業して生きるものは数少ない。漁業者達の中にも、生き残して生きるものは、生き残る。他の高校生において、生き残る、存在があった。他の高校生において、内海就職者の数は、少い。この年代の青年達は、生き残りが容易でない事業である。アメリカ社会など、生き残れた世代は、遅れてから本国へ帰つて新しくアメリカ文化の花を咲かせた頭頭となった。我々の「牛牛」時代、も故郷、時代文化の花が咲かせた頭頭となり、その日が来るかも知れない。その日が来る時、地盤強化、都市人口の減少などにより奇異な現象が現れる。この社会現象は、まさに住み良いものにならぬはずである。

部 説

能高祭は七月一日の第三回能高祭実行委員会において、九月二十一日前夜祭、二十二、二十三日本祭の日程で開催されることが決まった。
今年の能高祭は創立四十周年記念と銘うつており予算も昨年より倍近くなっている。
能高祭実行委員会は現在まで四回を数えており 企画部発表の原案についての討議が行なわれているなお実行委員会は今後から、前夜祭 催し物、展示物担当の三つの小委員会にわけられ、企画を進める事になつてゐる。

能高祭近し

実行委員会発足

校友時報

昭和40年7月9日
編集人兼發行所
秋田県能代市畠町追分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

学生のみせ
キムラヤ
たまち 2-5535

多い今後への課題

四月六日始業式、七日入学式そしてこのことがまたなくていい。八日には式典が行なわれた。校長先生の御鍼灸を頂いたのは、二、三年生は例年のごとく体育馆ちゃん、さい先の良いスタートに驚いて待っている中を一年Aあつたとは言えない。そして、細から順にへってくる。初めのうちは拍手、迎えられたが次第に野次、罵声に変る最後のG組が入場するところは拍手の音は聞き

「はなし下さい」

参考書

小玉自転車店

Opt Pen
力 モヤ

カメラ 材 料

夏→秋→冬→春 季節を問わず
ス ポ ー ツ 用 品 は

レコード・楽器
ヒット曲、新譜、強力
盤豊富に取り揃えお
ります
レコードのことならな
んでも相談してください
レコードは各社特約の
専門店より
各レコード会社
全音第一楽器
特約店
名曲堂
柳町中央 T 2-5808